

# 日本応用経済学会ニューズレター

Japan Association of Applied Economics News Letter

第3号 2011年9月

日本応用経済学会事務局：〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-19-1 九州大学経済学部

TEL/FAX：092(642)4448

E-mail: [jaae@en.kyushu-u.ac.jp](mailto:jaae@en.kyushu-u.ac.jp)

<http://mweb.healthcare-m.ac.jp//>

---

## 目次

はじめに

理事会報告

編集委員会

学会賞選考委員会

国際交流委員会

2011年度秋季大会のご案内

事務局だより

2010年度決算資料

2011年度予算資料

## I はじめに

### 「IEIC2011 を終わって」

2011年9月  
日本応用経済学会  
常務理事 細江 守紀

この夏8月17日18日福岡国際会議場において 2011 Institution and Economics International Conference, “Institutions, Law, and Economic Development” が日本応用経済学会, 韓国制度・経済学会, そして九州大学 P&P リサーチプロジェクト” 金融危機と金融制度” の共催で行われました。大会が無事にそして盛大に終了できたことに対して皆様のご協力に感謝いたします。大会は韓国, シンガポール, オーストラリアなどの海外からの多くの研究者を含めて多数の参加がありました。また, 予想以上の報告希望があり, 一般報告は60本となりました。内容は経済発展と成長, 制度と法の経済分析, 金融危機の分析, そして地域財政経済分析などに及び, 活発な議論がなされました。また, 3つのキーノートスピーチがありました。1つめはカリフォルニア大学(バークレイ校)のD. Rubinfeld 教授による反トラスト法における合併の評価に関する講演, 2つめは東京大学の岡崎哲二教授の戦前期日本をケースとした経済発展における裁判所の役割に関する講演, そして, 3つめにニューサウスウェールズ大学のL. Dwyer 教授による目的地マネジメントの観点からのツーリズムと経済発展に関する講演がなされ, それぞれフロアからの熱心な質問がありました。コンファレンスのキーワードである制度分析は多様な経済発展がもつ様々な課題をとく鍵として極めて重要であり, 今後一層の学問的な深化を遂げるものとして期待されています。それは特別報告を

された韓国制度・経済学会長のS. H. Jwa 教授のお話のなかでも強調されたところです。なお, 1日目の夜は博多湾の周りでクルージングをおこない, 涼しい夜風を受けながら思いで深い歓談をすることができました。

最後になりますが, 今回のコンファレンスを行うにあたって, 実行委員会の皆様がたのご協力にこそより感謝いたします。またプログラム編成に際しましてはプロコミ委員長の中村保先生(神戸大学)をはじめプロコミのメンバーにはひとかたならぬご苦勞をお掛けしました。さらに, 大会の運営にあたっては堀宣昭先生(九州大学)内藤徹先生(徳島大学)をはじめ多くに先生方に大変お世話になりました。こうした国際コンファレンスをとって国際交流, 共同研究が一層促進されることを祈念いたします。

## II 2011年度理事会報告

### 2011年度春季大会理事会報告

開催日: 2011年6月26日10時00分  
~12時00分

開催場所: 中京大学センタービル7階

### 議題

1. 前回理事会以降申込のあったもの19名の入会が承認された。
2. 秋山常務理事(財務担当)より2010年度会計報告が行われた。監査については板倉先生より監査の結果, 適正であることが報告され, 審議の結果, 承認された。なお, 会計報告に修正がある場合, 秋季大会で修正報告を行うことになった。
3. 秋山常務理事(財務担当)より2011年度予算(案)について説明が行われ承認された。また, 細江常務理事(総務担当)

より、招待講演に関する旅費の支払いについて説明が行われた。

4. 木原隆司氏（アジア開発銀行研究所）が理事として加わることが承認された。
5. 焼田編集委員長より、今年度学会誌への投稿・査読状況の説明がなされた。
6. 2011年度IEICの進捗状況について細江常務理事より説明があった。
7. 次回の秋季大会は11月26日（土）、27日（日）に慶應義塾大学三田キャンパスにて開催されることとなり、藤田康範教授より挨拶と、準備についての説明があった。

出席者：奥野（藤原）、大住、多和田、福重、田中、細江、秋山、中村、中山、山田、内山、成生、慶田、焼田、林、渡辺（以上理事）、板倉（監事）、藤田（康）（次期開催校より）、藤田（敏）、坂上、内藤、野崎（以上事務局）

（以上）

### Ⅲ 「応用経済学研究」編集委員会報告

2011年6月

「応用経済学編集委員会」委員長  
焼田党（名古屋市立大学）

1. 第4巻の刊行について  
第4巻は前編集委員会の作業により、昨年12月に刊行された。第4巻の編集作業では投稿された論文は21本であったが、そのうち9本が研究論文として、1本が研究ノートとして掲載された。
2. 第5巻の編集について  
第5巻については新しい編集委員会のもとで編集作業が進められ、12月に刊行の予定である。第4巻刊行前に投稿された

論文2本とその後投稿された論文20本の計22本の論文について、査読作業を進めた。勁草書房に原稿を送付する9月半ばの時点で、11本を研究論文として、3本を研究ノートとして第5巻に掲載の予定である。今後、校正作業の後、12月中に刊行の見込みである。なお、上記20本の論文のうち2本の投稿論文については9月半ばまでに査読作業を終了できなかったため、第6巻の編集作業と並行して行われることとなる。

### 3. 編集委員会について

昨年9月に編集委員会の構成員のほぼ半数が交替し、さらに編集委員数は若干増えて、計14名となり、ほぼ前委員会の編集方針を受け継いで編集作業にあたっている。編集事務局は、委員長は交替したが、副委員長と内田、中田、浦川、坂上編集委員はそのまま、計6名で作業を行っている。

### Ⅳ 2011年度学会賞について

学会賞選考委員長  
田中廣滋（中央大学）

#### 学会賞

林 正義（東京大学）

#### （推薦理由）

林正義氏はこれまで日本の地方財政などの実証研究をされ、多くのファクトファインディングをされてきた。また、生活保護制度についての実証的研究を精力的にされ、所得再分配を巡る分析を進められ学界の注目するところとなっている。これらの研究は多くの学会誌、書籍に刊行されており、応用経済学の先

端的研究として高く評価される。尚、本学会において推薦講演、一般報告などで活躍されている。以上の理由で林正義氏を日本応用経済学会・学会賞の候補者として推薦いたします。

#### (主要業績)

“ Redistribution and local public finance, ” Public Policy Review 6(1), p. 31-p. 54, 2010

“ The tax system and labor supply: Regarding empirical analysis in Japan, ” The Japanese Economy 36(1), p. 106-p. 136, 2009.

#### 受賞者講演概要

**演題:** 生活保護と地方財政: 「生活保護費に関する関係者協議会」における議論をめぐって

三位一体改革では生活保護の国庫負担金の改革も検討された。その際、国と地方の関係者が参加する「生活保護費および児童扶養手当に関する関係者協議会」が設置され、地方財政と生活保護に関する複数の論点（保護率の地域差の原因、国庫負担金の効果、生活保護の実施体制の効果など）が検討された。しかし、国と地方の議論は対立し、統一的な見解が得られるまま同協議会は打ち切られた。本報告では、この協議会で提示された複数の命題に関し、非公開の生活保護データを用いた実証分析を行い、いずれ側の主張が実証的に支持されるか否かを再検証した。

#### 学会賞（学術論文賞）

楠田康之（日本福祉大学）

#### (推薦理由)

楠田康之氏の本学会誌の論文は、コンビニエ

ンスストアのフランチャイズ・チェーンにおいて、フランチャイズ本部が加盟店に対して廃棄原価に対してロイヤルティを課す契約でのモラルハザード問題を分析している。とくにフランチャイズ料を含むことができない場合ロスチャージが加盟店の販売努力に関するモラルハザード問題をどの程度解消できる可能性があることを示している。この分析は廃棄原価を導入したモデルでの新しい結果を提示しており、独創的な観点を多く含んでおり、貢献度が大変高いものと思われ、よって楠田康之氏を今年度の学術論文賞の候補者として推薦いたします。

#### (主要業績)

「フランチャイズ取引における廃棄ロスとモラルハザード」応用経済学研究 4巻 p. 30-p. 50, 2010.

#### 学会賞（奨励賞）

斎藤隆志（早稲田大学）

#### (推薦理由)

斎藤氏の研究は、日本で実施されてきたダイベストメント型 MBO の決定要因についての実証分析を行っている。事業単位の売り手となる親会社に焦点を合わせ、パネルデータを用いて実証分析を試み、安定株主のプレゼンスが大きな企業では、ダイベストメント型 MBO に消極的であり、ROA が低い親会社は、傘下部門の MBO を実施する傾向があることなどを示した。従来、この分野における実証研究は極めて限定的であり、大変周到な手法への取組のもとに説得的な結論を出している。

これまでの氏の研究と合わせて本論文の成果から判断して、斎藤氏が今後企業研究への更なる活躍が期待され、ここに奨励賞の候補者として推薦します。

### (主要業績)

「企業リストラクチャリングのツールとしての MBO— 事業譲渡との比較分析—」(川本真哉と共著), 応用経済学研究 4 巻 p. 72-p. 93

## V 国際交流委員会報告

### 1. 2011 年度韓国応用経済学会への参加の件

「2011 年度韓国応用経済学会定期学術大会への参加について」

中村 保 (神戸大学)

韓国応用経済学会の定期学術大会への参加は、国際交流活動の一つとして 2008 年から続いています。2011 年度の大会は 4 月 22 日にソウル大学で開催され、日本応用経済学会からは前会長の細江守紀先生(熊本学園大学)、多和田真先生(名古屋大学)、依田高典先生(京都大学)、小黒一正先生(一橋大学)と私の 5 名が参加し、英語セッションで論文を報告しました。大会での有意義な討論は、私たちはもちろん韓国側の参加者にとっても良い刺激になったと確信しております。また、大会前日の Keunkwan Ryu 韓国応用経済学会会長主催の夕食会と大会終了後の懇親会を通じて、お互いの交流を深めるとともに、今後のさらなる交流について確認することができ、大変有意義でした。

## VI 2011 年度秋季大会のご案内

次回の日本応用経済学会の秋季大会は 2011 年 11 月 26 日(土)、27 日(日)に慶應義塾大学三田キャンパスにて開催される運びとなりました。つきましては、大会報告論文

を募集いたします。申込締め切りは 9 月 10 日(土)ですので、報告をご希望の方は申込用紙(学会ホームページからダウンロード可)をご記入の上、事務局までお送りください。なお、論文提出期限は 11 月 7 日(月)です。皆様奮ってご応募のほどをお願いします。また、ご報告のご推薦、セッションの組織などのご希望がございましたらよろしくお願いたします。

日時: 11 月 26 日(土) 27 日(日)

場所: 慶應義塾大学

報告申込締切: 9 月 10 日(土)

## VII 事務局便り

厳しい暑さからようやく解放されるようになりました。先日、中京大学で開催されました春季大会では大変お世話になりました。とくに、大会実行委員会委員長の山田光男先生はじめ各委員の先生方、また、プログラム委員会の皆様には感謝申し上げます。お陰様で多くの方々の参加があり、喜んでおります。大会が皆様の有意義な学术交流の場としてより一層の評価を受けるように頑張っていきたいと思っております。

(ニューズレター作成担当 内藤徹(徳島大学))

(資料2)

## 平成22年度 日本応用経済学会 会計報告

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

## 1. 収入の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(b)-(a)
繰越金	2,635,622	2,635,622	0
会費収入	2,250,000	2,852,000	602,000
参加料収入	600,000	602,000	2,000
懇親会費収入	240,000	223,000	-17,000
学会誌収入(掲載料他)	180,000	150,000	-30,000
利子収入		230	230
雑収入		0	0
合計	5,905,622	6,462,852	557,230

## 2. 支出の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(a)-(b)
通信費	150,000	94,910	55,090
消耗品費	60,000	101,920	-41,920
事務補助費	350,000	396,720	-46,720
学会開催補助費	400,000	400,000	0
懇親会補助費	240,000	223,000	17,000
理事会開催補助費	100,000	69,932	30,068
各種委員会開催費	50,000	10,000	40,000
シンポジウム等補助金	200,000	100,000	100,000
学会賞	70,000	48,550	21,450
国際交流費	350,000	250,765	99,235
払込手数料	50,000	40,405	9,595
学会誌購入	2,700,000	3,049,830	-349,830
雑費	50,000	27,209	22,791
予備費	2,050,926	0	2,050,926
小計	6,820,926	4,813,241	2,007,685
繰越金		1,649,611	
合計	6,820,926	6,462,852	358,074

上記の通り報告致します。

監査の結果、上記相違ありません。

会計担当理事 秋山 優  
 会計担当幹事 野崎 竜太郎  
 監事 板倉 理友



## 平成23年度 日本応用経済学会 予算

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

### 1. 収入の部

項目	予算額	備考
繰越金	1,649,611	
会費収入	2,820,000	(8,000円×315人)+(5,000円×60人)
参加料収入	600,000	2,000円×150人×2回
懇親会費収入	240,000	{(1,000円×20人)+(2,000×50人)}×2回
学会誌収入	180,000	掲載料15,000円×12人
利子収入		
合計	5,489,611	

### 2. 支出の部

項目	予算額	
通信費	100,000	
消耗品費	100,000	
事務補助費	350,000	150,000+200,000円
学会開催補助費	600,000	300,000円×2回
懇親会補助費	240,000	懇親会費収入と同額
理事会開催補助費	100,000	50,000円×2回
各種委員会開催費	50,000	
シンポジウム等補助金	200,000	
学会賞	60,000	
国際交流費	350,000	(2人2泊5万円+旅費2人10万円)*(派遣+招待)
払込手数料	50,000	
学会誌購入	1,600,000	
雑費	50,000	
小計	3,850,000	
予備費	1,639,611	次期への繰越金予想
繰越金		
合計	5,489,611	